

ナル対策研修会

清水南公民館 2024.6.2

解決すべき社会問題



農作物被害 生活被害 人身被害 家畜伝染病 人獣共通感染症

サル対策

まず、知つておくべきこと

現場で最も多く聞かれる声

「なぜ、行政は全頭捕獲しないのか？」

■ 主な理由

- ・山奥の群れ・個体と入替わるだけ。住民意識・行動が変わらなければ、行政・捕獲従事者にとって「無間地獄」！
- ・全頭捕獲は難易度が極めて高い。
- ・生態系への影響リスク
- ・自然保護団体圧力への対応労力が膨大である

「サル対策は難しくない！
しっかりした戦略に基づく対策をきっちりやれば
イノシシ・シカよりも明確に成果がでる。」

兵庫県立大学・日本サル管理協会 山端 氏

- 1) 地域個体群管理のグランドデザイン
特定計画・地域実施計画策定

2) モニタリング

3) 広域連携の推進

4) 人材育成

市町

- 1) 計画的な個体数管理
2) 集落主体の対策推進・支援

集落

- 1) エサ量の低減
2) 組織的な追払い

個人

- 個々の農地
1) 家庭菜園を囲む

公助

支援

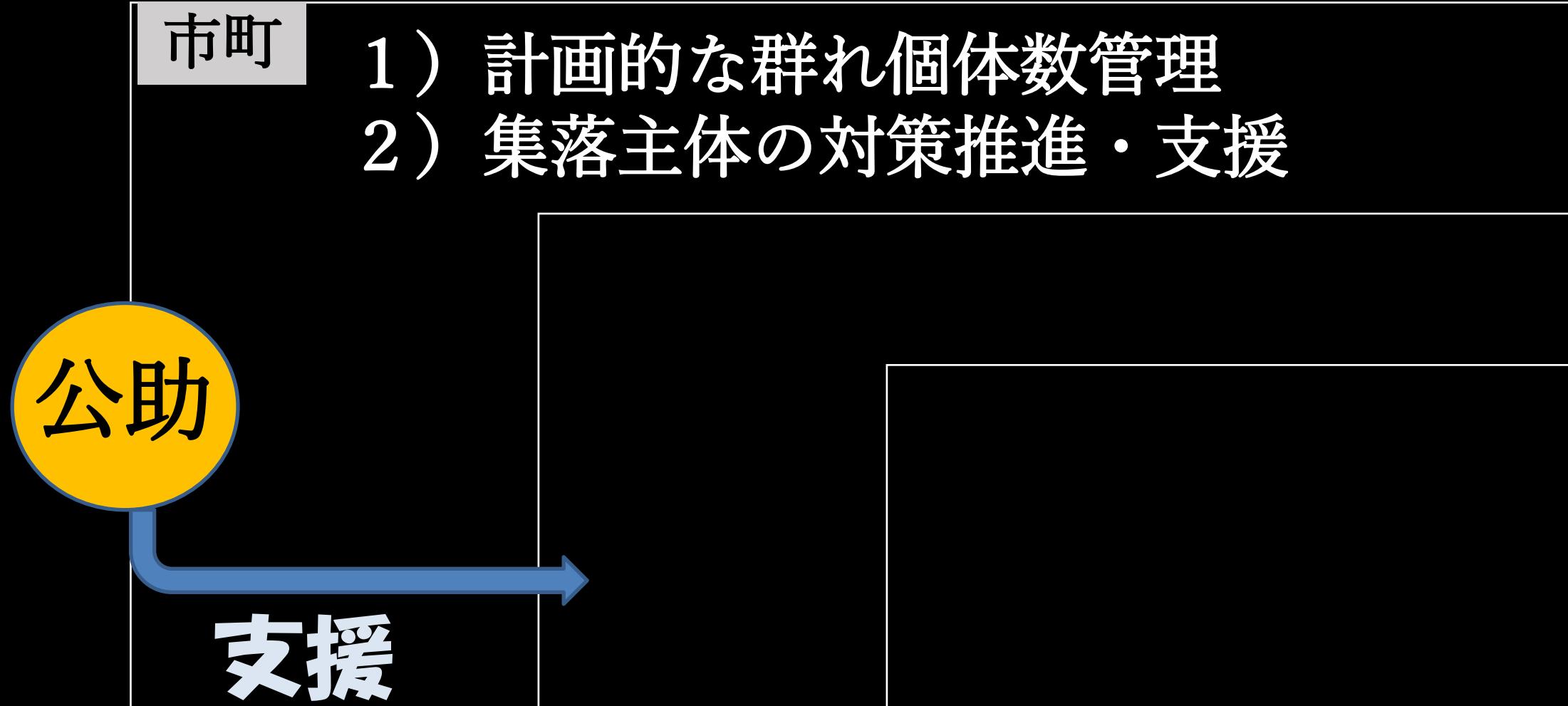
共助

自助

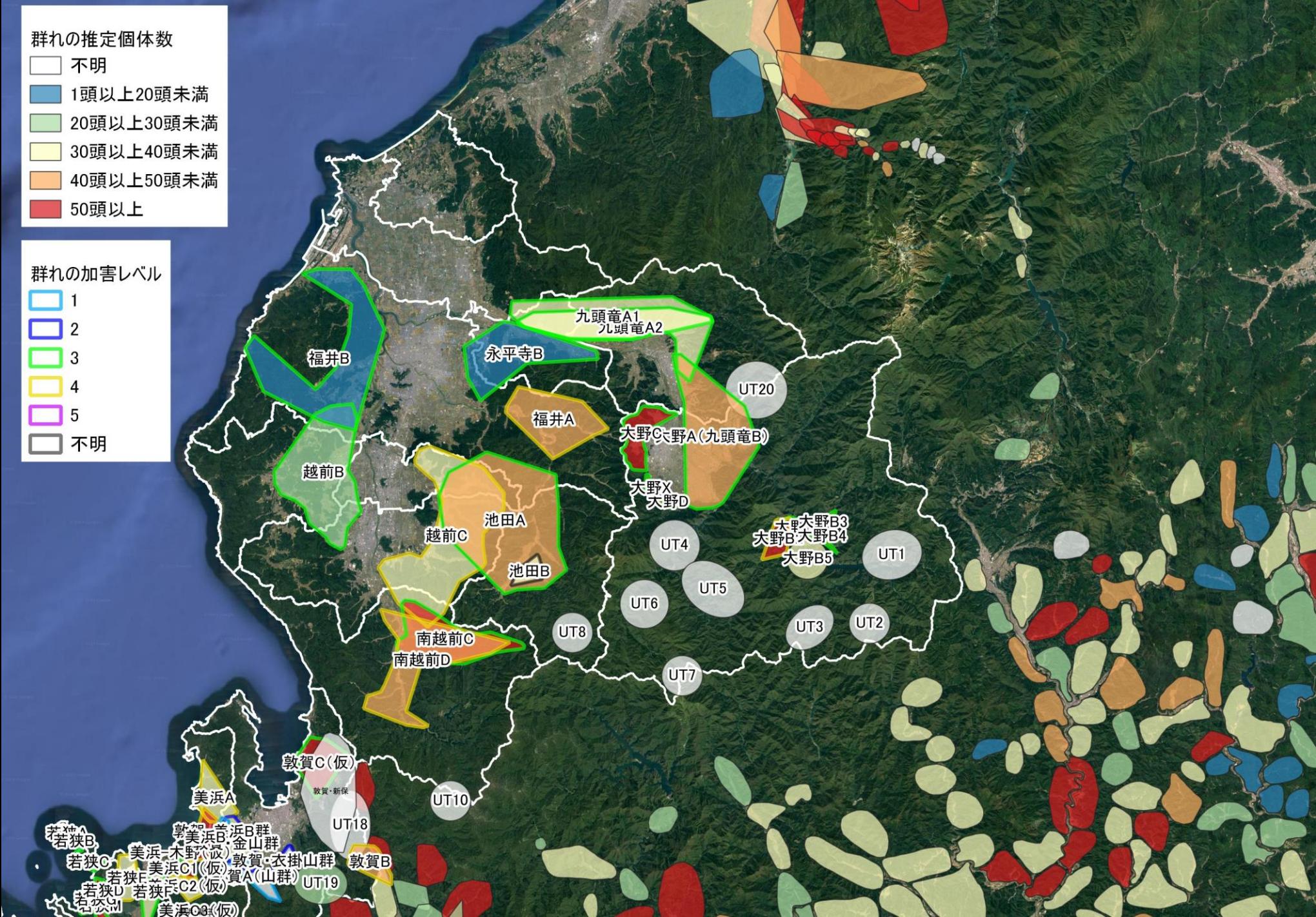


市町の役割

県



群れ管理 嶺北の分布 (個体数・ 加害レベル)



管理計画 (R5~5ヶ年)

越前B : 23頭 ⇒ 15頭以下

加害レベルが上昇

部分捕獲・悪質個体の選択捕獲

福井B : 調査中

目標：住民主体で追払いやすい 30頭以下



大野市 サークルM（地獄檻）



Hykecam

H351

M

2022/04/28 09:25:28

013°C



越前市 「まる見えホカくん」 ICT

住民の役割 = 住民がやるべきこと
住民がやつた方がうまくいくこと

集落

- 1) エサ量の低減
- 2) 組織的な追払い

共助

個人

- 1) 個々の農地
家庭菜園を囲む

自助

対策の優先順位

防火 > 初期消火 > 消防署

地震火災時の消防による消火は全体の数%

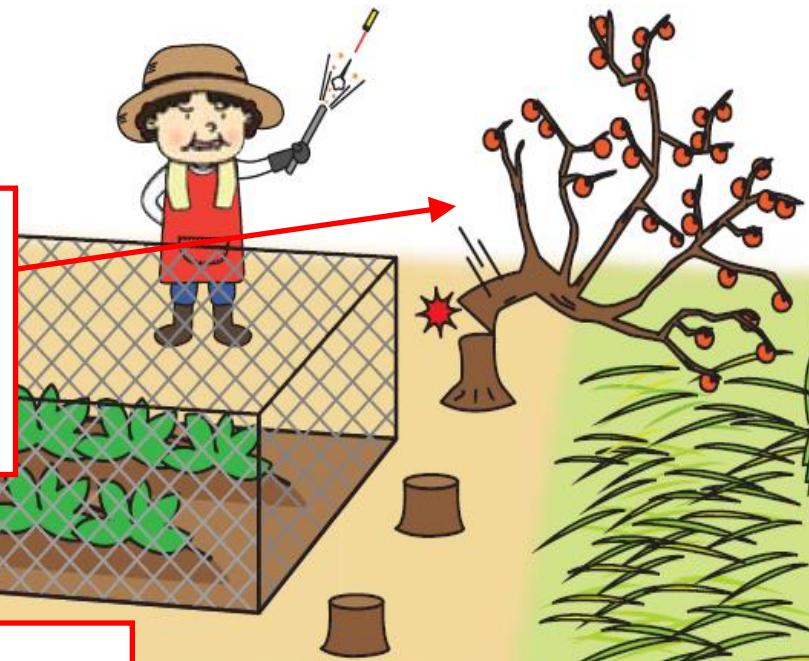
みんなで協力し、集落に依存させない

1 勉強会

餌が食べられないぞ！
人間は怖い！



2 放任果樹伐採 やぶ刈り払い

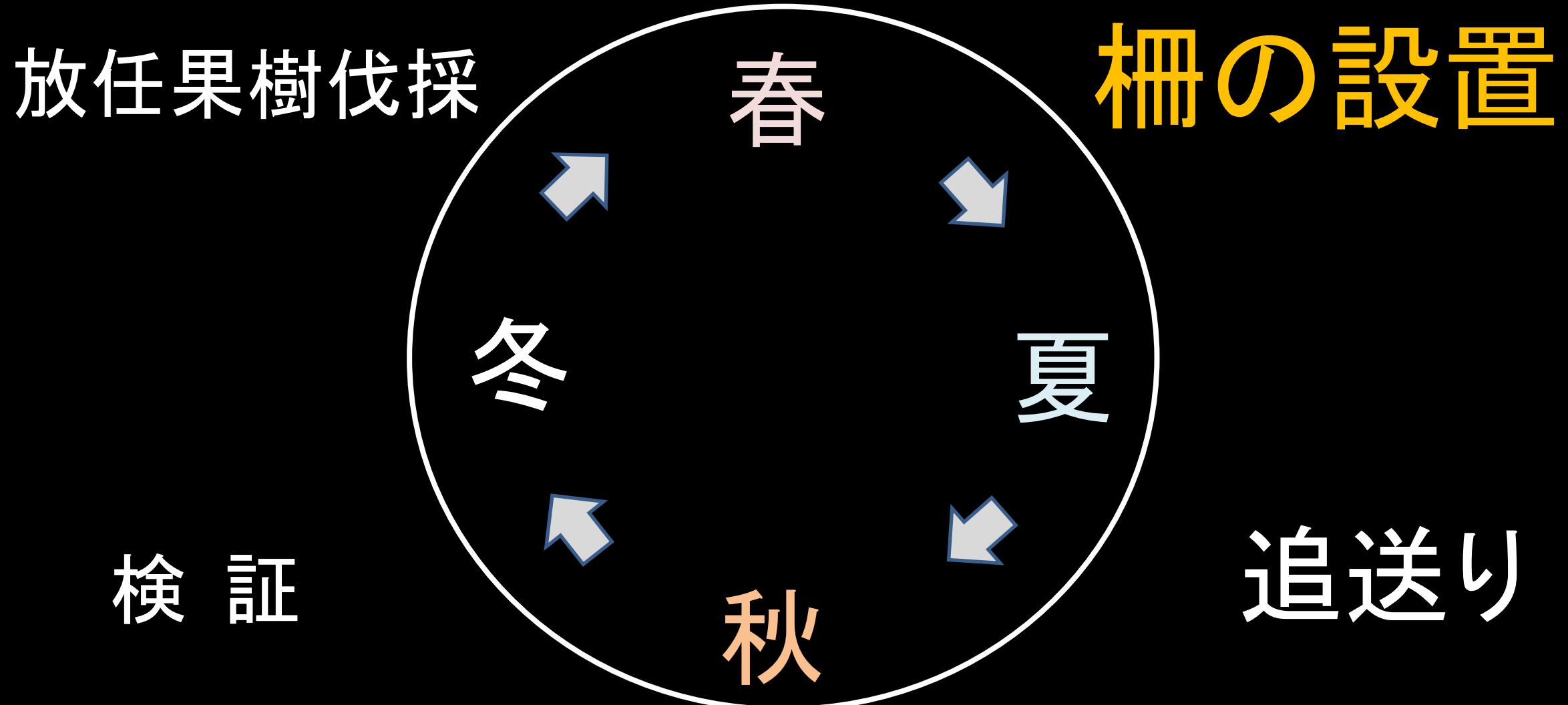


3 防護柵

4 追い送り



集落での対策 年間活動



事前に勝負がついている

勝つための 2つの準備

事前の準備 1 = 効果的な 防護柵 の設置

食わせない！

食わせない 1

おじろ 用心棒

15万円/100m
自己負担 1/3
⇒5万円



電柵コード 3段

おじろスプリング

ワイヤーメッシュ
10cm目合

(亀甲金網 2cm目合)

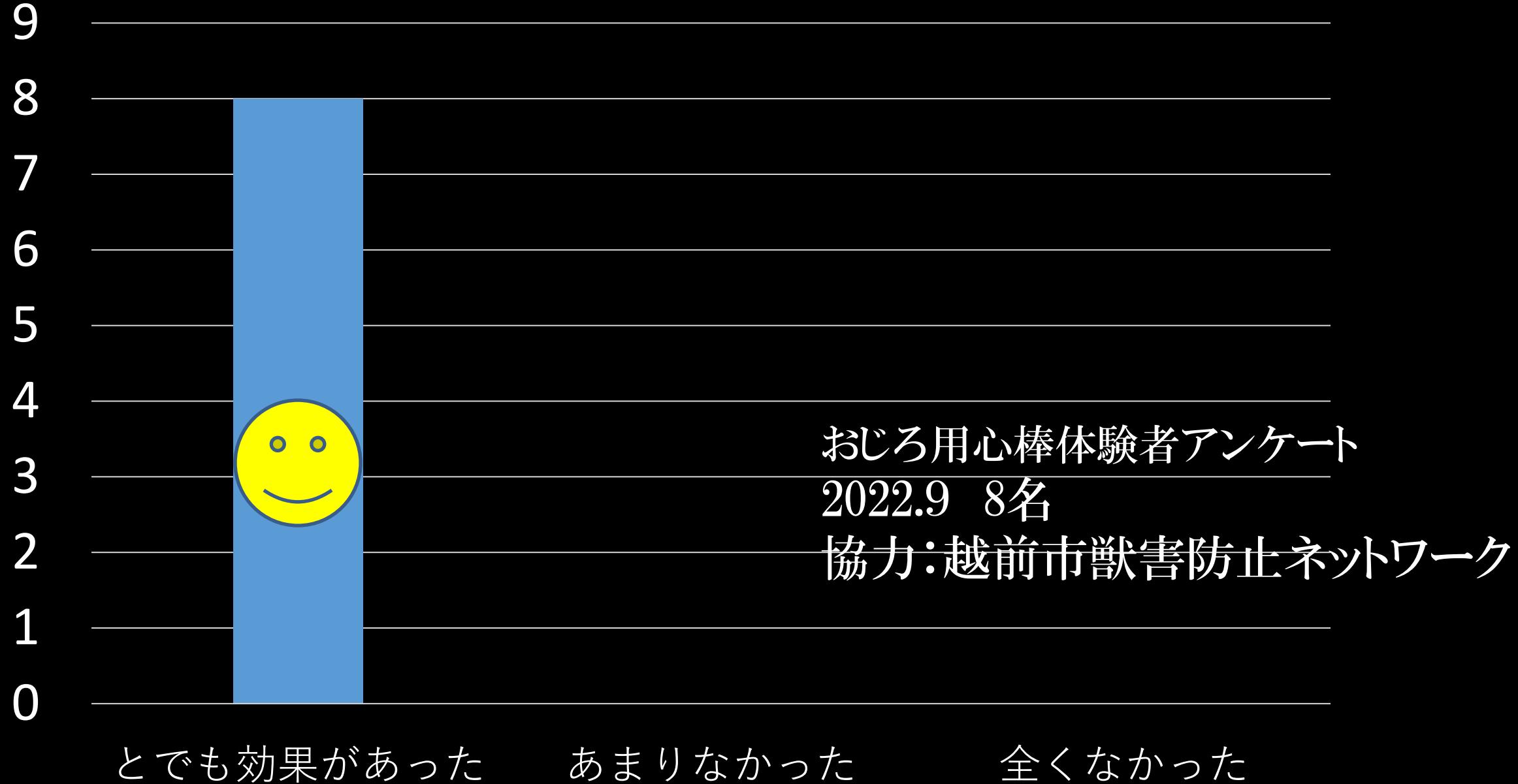
電柵コード 1段

(マイナスシート)



もぐり込み防止
が重要

どれくらい効果がありましたか





事例紹介

勝山市 龍谷

2019

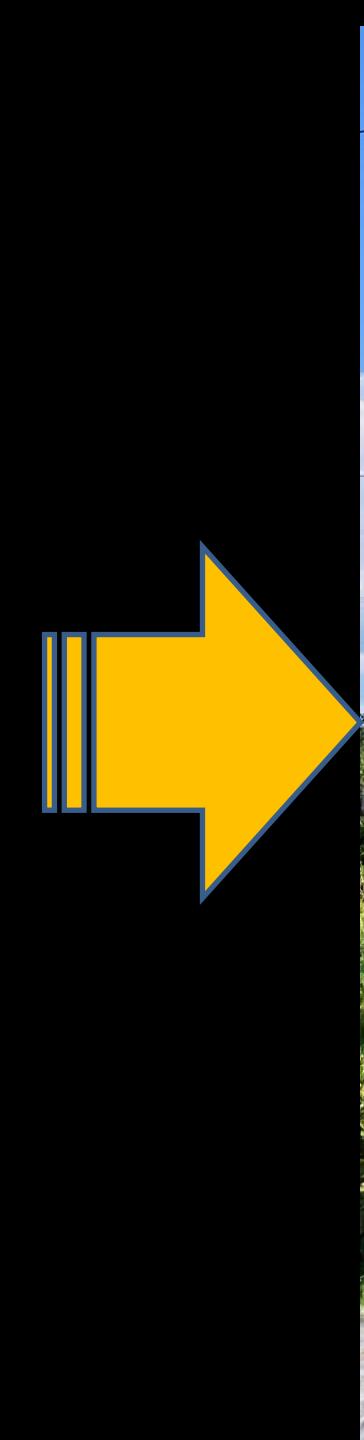
2018

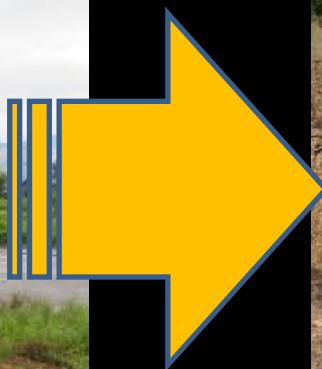
「昼間は誰もいない。
追い払いはとてもやってられない」

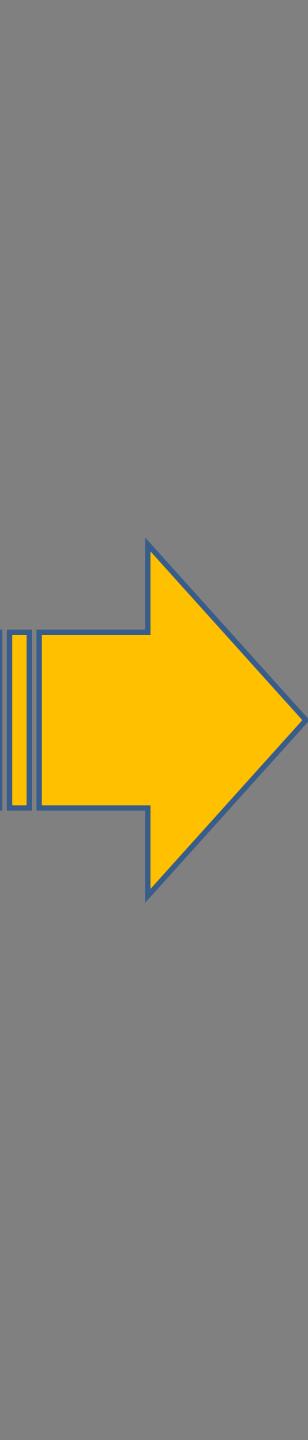
2023.6.30
サル用
おじろ用心棒
30a圃場



勝山市 龍谷





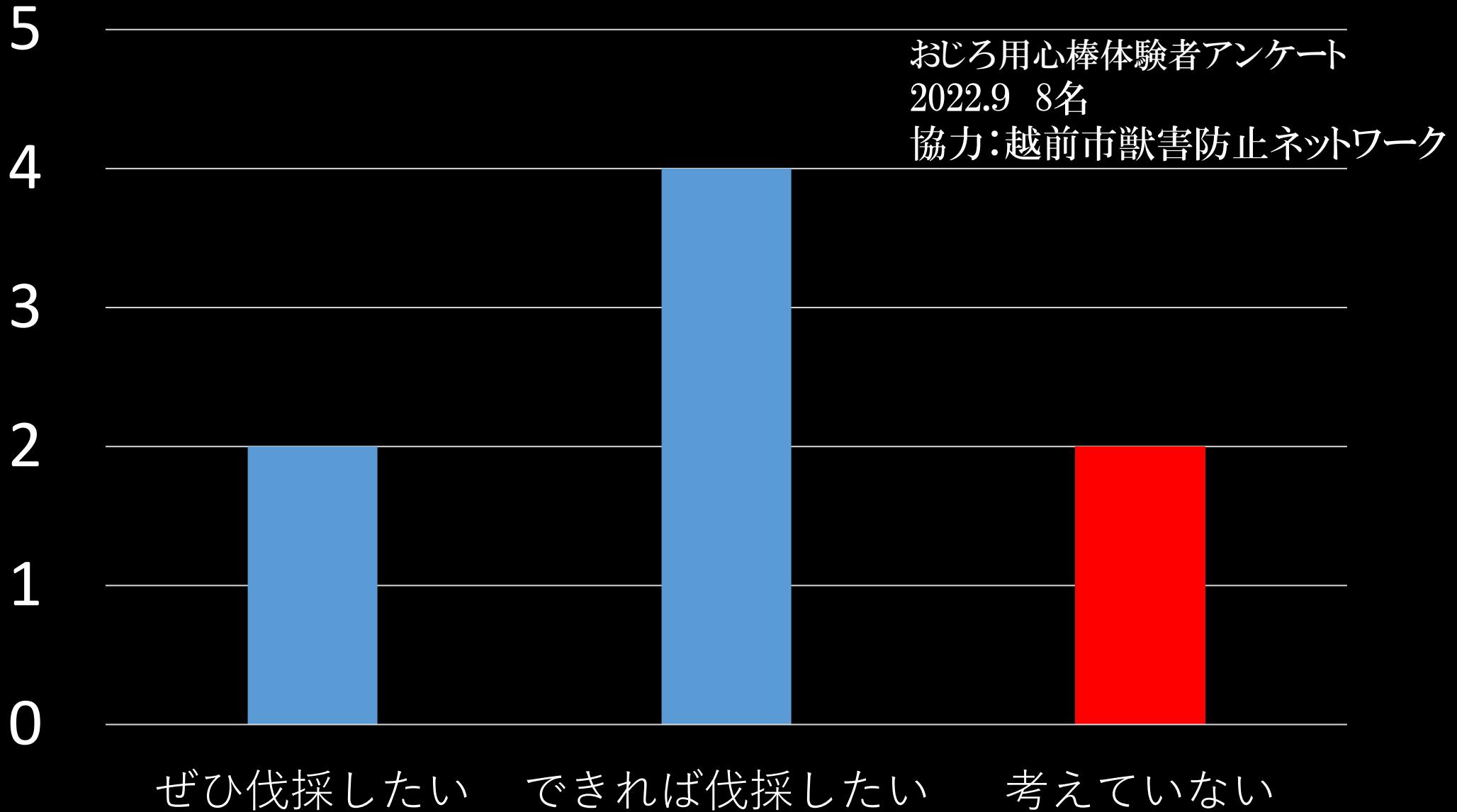


食わせない 2

誘因物の除去

放任果樹の伐採
家庭菜園の残渣処理
水田の秋起こし

放任果樹の伐採



An aerial photograph showing a patchwork of agricultural fields in shades of green, brown, and yellow. A small cluster of buildings is visible in the lower right corner.

事例報告：小浜市 法海

- 1 家庭菜園の囲い
- 2 追払い
- +3 放任果樹の伐採 2020

= 総合的対策 ⇒ 成果

小浜市 法海
2020 放任果樹の伐採





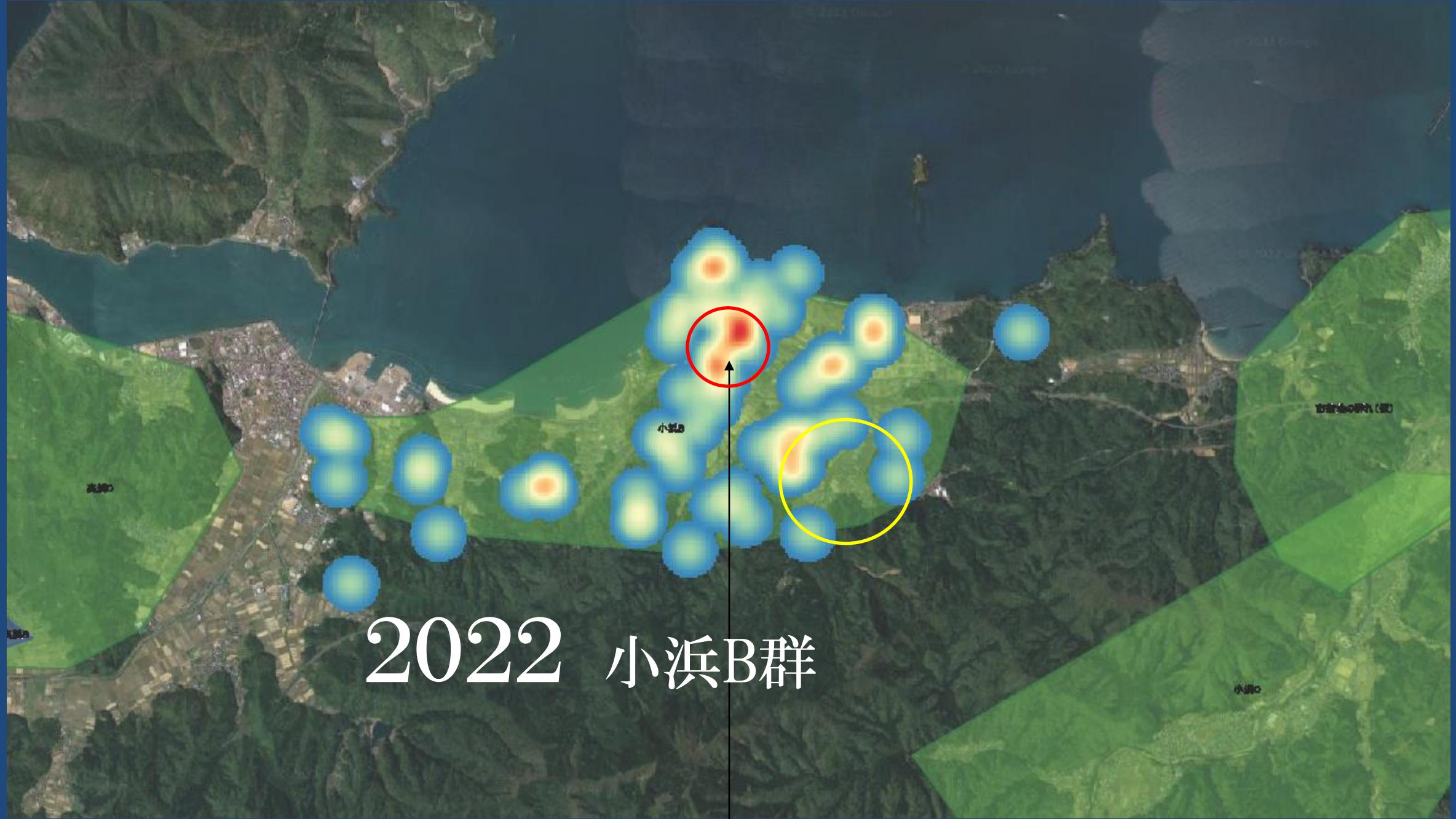
小浜市 法海 2020
マッピング

カーネル密度推計による2020年のヒートマップ・分析ポイント数278点

使用データ: サル出没情報共有システムに「小浜B群」として登録されたポイントデータ







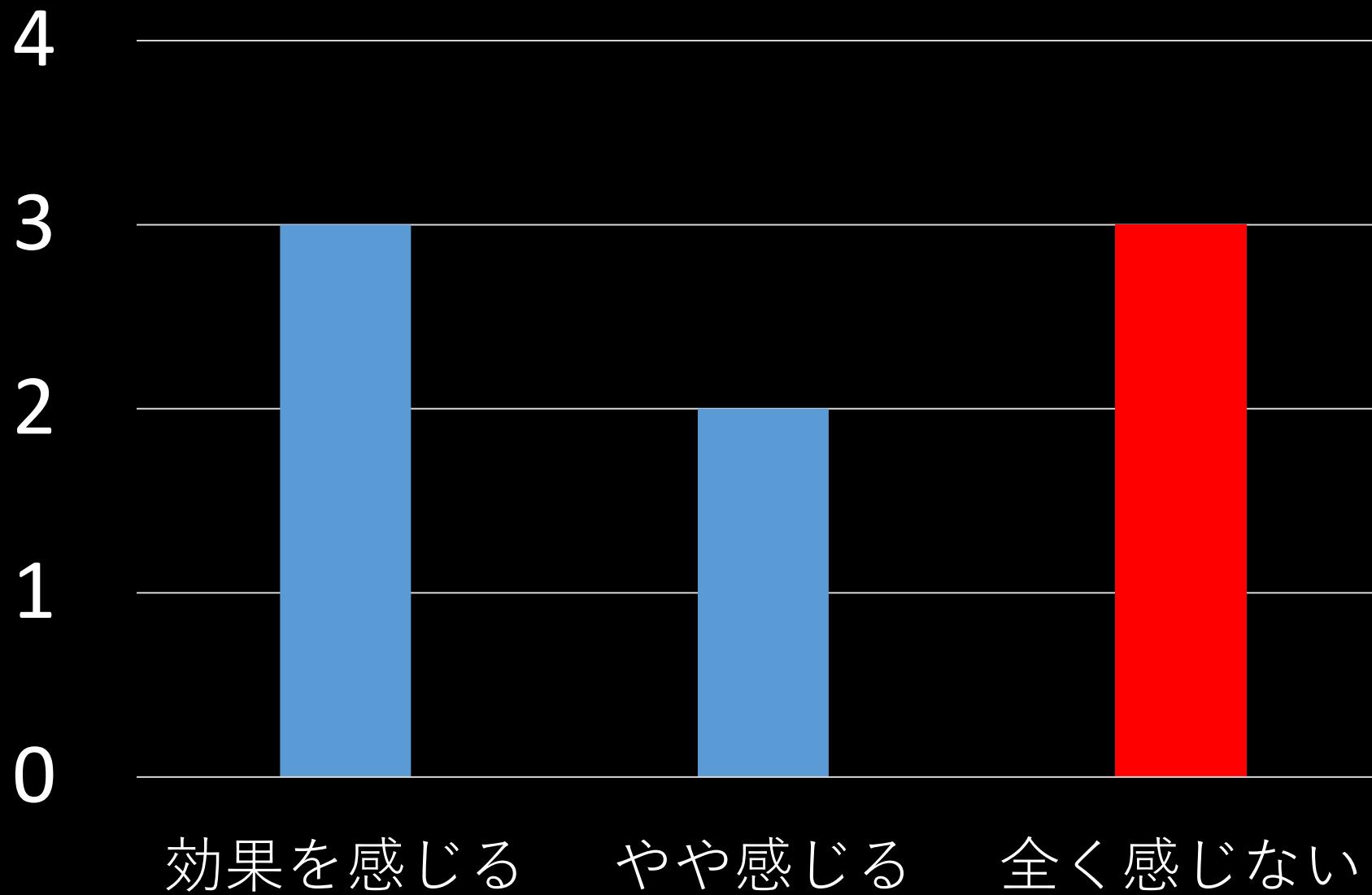
事前の準備 2

官民協働の体制づくり

食べられる前に
追い送る！

正しい追い払い

検証：追払いの効果



■原因

正しく追い払えていない=人が怖いという学習をしていない！

少し隠れれば、エサを食べられる

食べた後である



- ① 農作物が食べられた時だけ
- ② 追い払うのは限られた人だけ
- ③ 自分の農地だけ

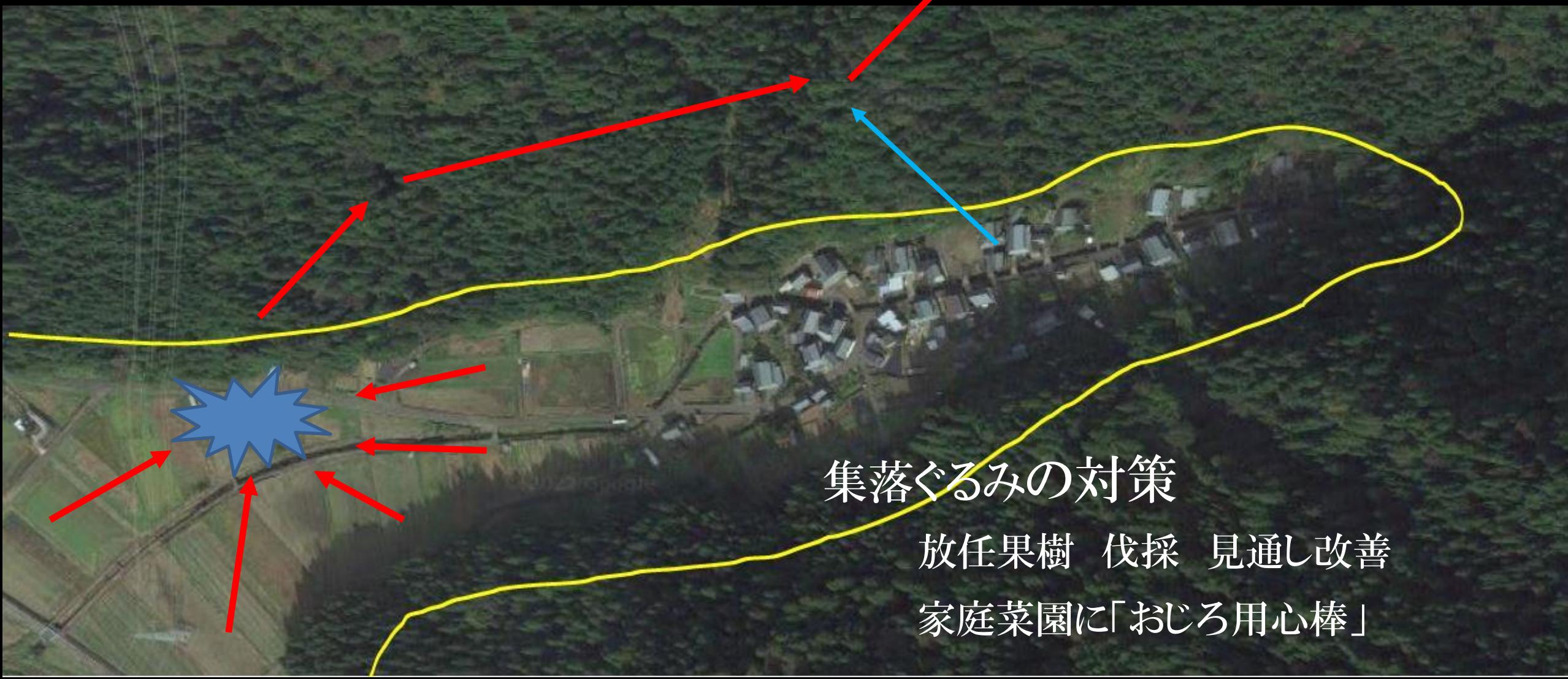
(サル対策のポイント)

○正しい追払い (=追い上げ・追い送り)

個々がバラバラに自分の農地だけを守る追払いではなく

- ① 集落の誰もが
- ② サルが出没したときは必ず
- ③ サルの出没場所に集まって
- ④ 集落からサルが出ていくまで
- ⑤ 複数の威嚇資材を用いて、追い送る!

数人で、追い上げ・追い送り



食べられる前に 追い送る準備

行政 発信器装着
越前B群

集落 監視員（受信機）
集落間・〃 内ライン

地域ぐるみの情報体制

テレメトリー監視員/集落



追い送る

サル群れの移動時、集落・農地に出ないように
山の中を回る群れに変える
集落の中に入れない
動きを止める方法は成功しない＝無理をしない

参考1 ニホンザルの群れ生活

- 複数の成メス、成オス、子供からなる群れ。通常10数頭～100頭程度。
- 母系社会。
メスは群れに留まり、オスは4～6歳くらいで群れから離れる。
(離れオスは単独または小グループで行動。特に繁殖期には群れの周りをうろつく。群れのメンバーになることも)
- 個体間には順位はあるが、ボスやリーダーと呼べるものはない。
- 群れの行動域は数km²～数10km²。行動域はかなり固定的だが、季節的に変化したり、周りの群れとの関係や環境の変化によって経年的に変化する。
- 他の群れや群れに所属しない個体に対しては、排他的。

参考2 ニホンザルの人口学

- メスは6～7歳から出産（条件が良ければ4, 5歳から）。
- 一般的には3年に1回程度出産。栄養状態がよいと1～2年に1回出産。
- 出産は1頭。ごく希に双子。
- 野生群の最高寿命は20歳程度。餌付け群や飼育個体では30歳以上まで生きることも。0歳の死亡率は30%～50%。
- 野生群の平均寿命（0歳の平均余命）はおそらく10歳前後だろうが、餌付け群では20歳近くになることも。
- 自然増加率は、数%～10%強と推定。
- 群れは大きくなると分裂して増える。
→ 餌付けや農作物依存が進むと、死亡率が下がり
増加率が上がる = 個体数、群れ数、分布域が増える

参考3 ニホンザルの食性と能力

- 雜食性だが、植物食中心。何でも食べるが、シカやカモシカのようにセルロースを分解できない。高栄養の餌を選んで食べる。
- 鼻ではなくて目の動物（人と同じくらいの能力）。
- 聴力 → 人より高い周波数が聞こえる。
- 記憶力（場所、出来事、人）・学習能力（試行錯誤）は高い。
- 運動能力は高い。数mmのとつかかりがあれば壁を上れる。

参考4 生息環境

- 元々の中心的生息地は広葉樹林（落葉広葉樹林よりも常緑広葉樹林の方が環境収容力が高い）。
- 二次林や手入れの悪人工林などの搅乱された環境でも十分生息。
- 作物のある農耕地や耕作放棄地などは魅力的な環境。